

まちなか歴史遺産散歩

大津のまちは、都から諸国へ向かう街道の要衝にあり、人・モノ・情報が行き交って活気にあふれていました。

安土桃山時代の大津城城下町としての発展から、江戸時代に各地からの物流の中心地となった大津百町、そして明治日本の近代化の歩みでは鉄道の敷設・琵琶湖疏水の開削で、いち早く日本の最先端技術が投入されたことなど、今日もまちなかに多く残る歴史遺産を見つけてみましょう。

What's?

おおつひやくちょう
大津百町とは



京都方面から旧東海道の追分を東へ、逢坂山峠を越えて琵琶湖に向かって東西に広がるエリアを「大津百町」といいます。

大津百町の始まりは、安土桃山時代の天正14年(1586)頃に琵琶湖岸に大津城が築城され、城下町が誕生した頃まで遡ります。その後、江戸時代は琵琶湖水運の港町、東海道五十三次の宿場町、園城寺(三井寺)の門前町として栄え、人口密度の高い町が形成されました。江戸時代中期には町数が百ヶ町以上あったことから、その繁栄を表し「大津百町」と呼ばれるまでに発展しました。戦前までに建てられた伝統的な建築物や、隣接する京都の町家の影響を受けた大津町家など、歴史的な文化資源が現在も各所に残っている魅力的なエリアです。

制作	大津市中心市街地活性化協議会 まちなかガイドプロジェクト会議
お問い合わせ	(株)まちなか大津 滋賀県大津市浜大津一丁目4番1号 旧大津公会堂2階 [TEL] 077-523-5010



Let's try!

他にも様々なコースがあります

これまで開催して好評いただいた「大津まちあるき」を、ガイドなしでも楽しめるマップとしてまとめています。ぜひ他のコースも巡ってみてください。
※まちあるきは自動車などに十分注意してください。

- 大津絵を探す・見る・食べる
- 大津の歴史と女性たち
- 大津百町で朱印めぐり
- 江戸に帰って大津を歩く
- 大津に鉄道がやってきた頃
- まちなか歴史遺産散歩
- 大津町家めぐり
- 湖岸歴史散歩

2017.9 発行



START

京阪浜大津駅

まちなか歴史遺産散歩

コースのおすすめ順路と見どころのご紹介

① 浜大津(大津城跡・代官所跡・旧東海道線大津駅跡・江若鉄道浜大津駅跡)

明智光秀が討たれ、坂本城も落城した後、この地に大津城が築かれましたが、関ヶ原の戦いの際、西軍と対峙して落城し、今は残っていません。江戸時代には大津代官所が置かれ、明治13年(1880)から明治22年(1889)までは東海道線の長浜までの鉄道連絡船の大津駅として、昭和44年(1969)までは近江今津を結ぶ江若鉄道の浜大津駅がありました。

↓ 5分

② 江若鉄道廃線敷(大津絵のみち)

浜大津駅から明日都浜大津を抜けて琵琶湖疏水を渡る「大津絵のみち」は、江若鉄道の廃線敷です。沿道の民家の多くに面に面した玄関がないことから、昔はこの線路だったことがわかります。

→ 15分

③ 琵琶湖疏水

京都への水道・灌漑・水運・発電などを目的に、第1疏水は明治18年(1885)に着工し、明治23年(1890)に完成しました。第2疏水は第1疏水で賄いきれない需要に対応するため、明治41年(1908)に着工し、明治45年(1912)に全て暗渠で完成しました。この疏水で、京都の町は新しい近代都市へ歩みを始めたのです。

↑ 30分

④ 札ノ辻

東海道大津宿の中心が札の辻で、東海道と北国海道の分岐点になる交通の要衝でした。幕府の法令などを記した高札場が設けられ、人足や馬を提供する人馬会所がおかれました。現在地に大津市の道路元標があります。

→ 10分

⑤ 大津宿本陣跡

本陣とは江戸時代、諸大名の宿泊施設として各宿場に置かれたもので、大津宿には本陣2軒(大坂屋、肥前屋)と脇本陣(播磨屋)がありました。現在、明治天皇聖跡碑のある所には大坂屋本陣があり、3階には望楼があったと伝えられています。

← 15分

⑥ 旧逢坂山トンネル東口

日本の鉄道草創期にあたる明治13年(1880)に大津～京都間に完成した全長664mのトンネルです。日本人のみの手によって施工した、日本最初の山岳鉄道トンネルとして鉄道記念物になっています。大正10年(1921)に現在の東海道線の路線が開通するまで、列車が通っていました。

→ 11分

JR大津駅

GOAL

優しい大津のおやじが
ご紹介します!





大津百町まちあるきMAP

まちなか歴史遺産散歩 コース

おすすめのよしみちスポットのご紹介

ちよっとよしみち A 長安寺牛塔 **重要文化財**

現在の長安寺付近には関寺という寺があり、5丈(約15m)もある関寺大仏(弥勒菩薩像)が安置されていましたが、平安時代中頃に大地震で倒壊します。この寺の再建に寄進された牛が工事を大いに助けたことから、「霊牛」との噂が広まり、多くの参詣客が関寺を訪れました。工事完了とともに霊牛が死んだことから、供養のために建てられたのがこの牛塔(鎌倉時代)だと言われています。

ちよっとよしみち B 関蟬丸神社 下社

東海道を通る旅人を守る道祖神として創建されたのがはじまりといわれ、平安時代に琵琶の名手蟬丸が祀られたことで、音曲芸道の神として信仰されるようになりました。江戸時代には、諸国の説教師に免状を与え、各地での興行を保証していたといわれています。拝殿横の六角形の時雨灯籠は鎌倉時代の作で重要文化財に指定され、本殿裏には小野小町塚があります。

ちよっとよしみち C 大津事件の碑

明治24年(1891)に日本を訪問中のロシア帝国皇太子ニコライ(後のニコライ2世)が、この場所で警備にあっていた巡査、津田三蔵に斬りつけられ負傷する事件(大津事件)が起こりました。列強に氣遣う日本政府が死刑判決への圧力をかけるなか、大審院は司法の独立を守り、無期徒刑の判決を下しました。